

雲南市木次町「ふるさと尺の内公園」および

その周辺の特徴的な植物

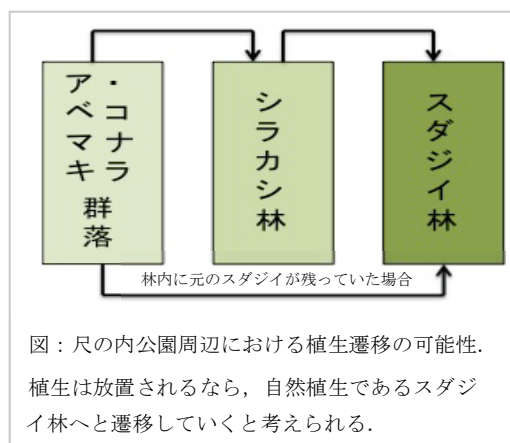
三浦憲人（ホシザキ野生生物研究所）

「ふるさと尺の内公園」（以後、尺の内公園と記す）は、野生動植物に生息環境を提供するための整備も行っている。また、尺の内公園をとりまく丘陵地があり、どちらも野生動植物の生息場所として一体的な調査を行う必要がある。

尺の内公園と丘陵地の植物に関して、2013年から2014年にかけて植生と植物相の調査について報告する。

2013年の調査から丘陵地の植生図を作成したところ、大部分にアベマキ・コナラ群落とスギ・ヒノキ植林が分布していた。そして、丘陵地の南東部にはシラカシが優占したシイ・カシ萌芽林を確認した。杵村（1998）は、この地域の気候や海拔高度などから、自然植生がスダジイ林を優占種とする照葉樹林であると考えている。そして、アベマキ・コナラ群落やスギ・ヒノキ植林は、このスダジイ林の代替植生の二次林であるとしている。また、コナラ林分に伴っているシラカシが林冠を構成し、シラカシ林が形成されていき、そのまま放置されるものであれば、相当な年数を経てスダジイ林へと遷移が進むと考えている。今回の植生調査の結果では、シラカシが優占したシイ・カシ萌芽林を確認することができた。しかし、スダジイ林への遷移を確認するには相当の年月が必要であると思われる。今後の遷移については永久コドラートを設置し、毎木調査を継続的に実施することで、さまざまな知見を蓄積することができると考えられる。

次に、高等植物（シダ・種子植物）を対象とした植物相調査から、700分類群を確認した。この中には照葉樹林構成種であるヤブツバキ・ヒサカキ・ヤブコウジなどを多く確認することができ、スダジイ林の組織的痕跡を強く持つと考えられた。これらの調査の結果からは、尺の内公園およびその周辺の植物は出雲市および雲南市にきわめて一般的に見られる植物が分布していることを示しているが、つまりそれは、出雲市や雲南市の一般的な自然を調べる上で、尺の内公園の調査が大変重要であることを示しているといえる。



図：尺の内公園周辺における植生遷移の可能性。
植生は放置されるなら、自然植生であるスダジイ林へと遷移していくと考えられる。